

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 申請があって全てを登録しているわけではございませんけれども、なかなか登録数が増えないということで課内で協議はしているんですけども、現在の状況で質が悪いということも承知しておりますし、登録期間が2年間という期間がございますので、2年間全く交渉が成立しなかったら登録を解除するというので進めておりますので、今後、登録することについては課内、部内でよく検討して進めてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 時間が来ておりますので、簡単に。

○議員（7番 入江 有紀君） よろしく願いしておきます。

以上です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 再開を11時10分からといたします。

午前10時57分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。入江有紀君から早退の届出がっております。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。1番議員の糸瀬雅之でございます。令和5年第1回の定例会が2月21日から始まっております。本日から一般質問となりました。今年は、対馬市にとりまして将来の方向性を定めるべく重要な1年となると思います。今、対馬市の最大の課題といえば、人口減少、様々な物価や資材の高騰の影響による経済の落ち込みではないでしょうか。2月25日から週末限定で釜山・比田勝間でフェリーが3年ぶりに就航いたしておりますので、少しでも対馬の経済が上向きになることを期待したいと思っております。

さて、対馬市は、来年3月に市制20周年を迎えます。同じく3月には、対馬市長選挙がございます。そして今、対馬市民が関心を持ちつつある高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査の受入れ問題など様々な話題がございます。我々19名の議員をはじめ、行政、市民が対馬の将来をみんなで考え議論し、何事にもスピード感を持ち、様々な問題点を解決に向けて取り組まなくてはなりません。これから先、1年間で将来の対馬が明るく期待が膨らむ活気のある島づくりを目指し、私も精いっぱい働きたいと思っております。

今回の一般質問のテーマは、様々な職場の人材不足による問題点を対馬市が今後どのように改善し、働き方改革を進めていくのか質問をいたしたいと思っております。

それでは、一般質問に入りたいと思います。

まず、教育行政についてでございます。

1点目、全国的に少子化や教職員の働き方改革などを背景に今、全国的に中学校の部活動の在り方が大きく変わろうとしております。対馬島内中学校の部活動、運動部、文化部の地域移行体制を今後どのように進めていくのか答弁をお願いいたします。

次に、教育行政2点目ですが、対馬島内各学校に特別支援学級がございますが、そこで児童生徒をサポートしていただいております介助員の業務内容、報酬について質問いたします。

今、介助員は、日額会計年度任用職員として対馬市が採用して各学校に配置をしておりますが、児童生徒の障害の状況で業務内容が様々であります。対馬市は特別支援学校の設置に向けて長崎県に要望をしておりますが、いまだに方向性が見えておりません。教職員ではサポートに限界があり、介助員の皆様のサポートがなくてはならない状況であります。

しかしながら、学校によっては介助員不足により、十分な支援体制とは言えないと思っております。対馬市として、今後、問題点をどのように改善していくのか答弁を求めます。

次に、福祉行政についてでございます。

対馬市内でも人口減少による少子高齢化の問題は喫緊の課題であります。対馬各地にございます特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、デイサービスセンターなどの高齢者施設で働く介護職員の人材不足について、対馬市として今後どのように取り組まれていくのか答弁を求めます。

最後に、対馬市消防職員の中途退職者についてでございます。

この質問は令和3年9月の一般質問でもさせていただきましたが、近年、若手消防職員の中途退職者が増加傾向が止まりません。それには何らかの問題点があると思われま。対馬市民の生命や財産を守るべく救急搬送、火災の対応、人命救助、日々の訓練など、私たちが生活をする上で必要不可欠の職員であります。3年に及ぶコロナ禍の中でも感染者の救急搬送業務では感染リスクを恐れず、大変御尽力をいただいておりますことに感謝をいたしております。今後、中途退職者を1人でも出さないためにも職場環境の改善、働き方改革の推進が必要と思われま。市長、消防長の答弁をお願いいたします。

以上、3項目4点について、よろしくをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、私のほうからお答えをさせていただきたいと思いますが、対馬市内の介護職員の人材不足についてでございます。市内の多業種においても人材不足が課題であり、その中でも、介護・福祉事業の人材確保は高齢化が進むにつれて、介護人材のニーズが全国的にも高まっている

状況であり、本市においても喫緊の課題であると認識しております。将来にわたって安定した介護保険・福祉事業の運営及び介護・福祉サービスを継続して供給できるよう、人材確保に取り組んでいるところでございます。

現在、平成28年度から県の人材確保対策事業を活用し、介護職員の育成、確保及び定着に向けた総合的な取組を実施するため、各法人の代表及び関係機関が連携と協働のもと、対馬圏域介護人材育成確保対策連絡協議会を設け、人材育成・確保対策に取り組んでいるところでございます。それぞれの立場から意見を出し合い、職場環境、スキルアップ研修会など、人材の育成・確保及び介護のイメージアップに資する事業に取り組んでおります。

若い介護職員が伝道師となり、小中高生への介護講座や職場体験等を通して、介護の仕事のやりがい、魅力を伝える活動や市内外でのお仕事説明会や対馬ぐらしフェア等へ参加し、介護の仕事PR活動も行っております。

市の取組事業として県の補助事業を活用し、平成30年度から介護初任者研修を対馬市社会福祉協議会が県の研修事業所として指定を受け実施しており、受講料の助成を行っております。未経験者、高校生の受講者も増え、令和元年度以降、受講された高校生8人が市内の介護事業所へ就職されている状況であります。

市といたしましても、今後も国、県の人材確保対策支援事業の情報提供や意見交換を行い、将来、安定した介護サービスの提供が持続できるよう、関係機関や法人、団体等と連携を図り、継続的な人材確保対策に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、消防職員の中途退職についてでございますが、議員御承知のとおり、毎年数名の中途退職がっております。退職者へ聞き取り調査をしてみますと、家庭の事情でやむなく退職せざるを得ない、本土の消防本部の採用試験に合格した、異業種へ転換など、その理由は様々であります。

その要因として考えられることは、家庭の事情があるほか、島外出身の職員が採用後に地理的環境などに順応できないこと。また、24時間勤務などの特殊性があることや、退職者がいることで人員増とならない悪循環が生まれ、休暇も取りにくい状況にあること。さらには、現代の情報化社会の影響で情報収集が容易となっており、就職先の選択肢が増えていることなどが複合的に重なり合っているのではないかと推察しております。

これらのことや令和3年9月議会での議員の御指摘も踏まえ、採用試験応募者の年齢上限を26歳から30歳までと拡大するとともに、追加募集で年2回の採用試験を行い、併せてIターン、Uターンを目的とした消防職務経験者枠の応募も年齢制限を拡大して引き続き行うなど、人員増に努めているところでございます。

その他、自費による中型免許取得を採用条件としておりましたが、普通免許取得時に取得可能な準中型免許の取得で足りることといたしました。

今後の取組についてでございますが、引き続き職員採用には取り組んでまいります。

また、出動手当などの諸手当の拡充につきましては、県内、他の消防本部と比較しても遜色はなく、また、本市他部署との均衡を保つ意味からも厳しいものと考えますが、消防本部内で消防職員委員会と申しまして、職員から勤務条件や施設整備などについての要望など意見を提出してもらい、協議する場も設けておりますので、職員の意見を聞きながら、少しでもいい条件での勤務環境を整えられるよう、できる部分から徐々に改善に努めてまいり所存であります。

私のほうからは以上です。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 糸瀬議員から教育委員会への御質問にお答えいたします。

初めに、対馬市内中学校の休日における部活動の地域移行をどのように進めていくかという御質問にお答えをいたします。

少子化の進展に伴い、学校によっては部員数が少なく、従前と同様の体制で運営することが困難になってきています。

また、教職員、個人の専門性や意思に関わらず、教職員が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、一層、厳しくなることが危惧されているところでございます。

そこで、今後の対応等について検討していただくために、昨年9月に対馬市部活動の在り方に関する検討委員会を設置いたしました。現在まで3回の委員会を開催し、協議を続けていただいております。10月には市内の小学校5年生、6年生、中学校1年生、2年生、その保護者、中学校の教職員を対象にアンケートを実施いたしました。その中で部活動の地域移行への不安や御要望等を伺ったところです。その結果等も踏まえ、今年度中に4回目の検討委員会を開催し、現時点での協議の内容を提言としてまとめていただくことになっております。

この検討委員会は、対馬市のスポーツ協会、中学校体育連盟、校長会、PTA連合会、教職員代表の10名の委員で構成されています。来年度からは文化協会及び文化部の指導に携わる教職員の代表も加わっていただき、運動部に加え、文化部の地域移行についても協議を併せてお願いすることにしております。

そのような中、国の動きとしましては、スポーツ庁と文化庁が昨年12月に学校部活動及び新たな地域クラブ活動等の在り方等に関する総合的なガイドラインを公表しました。地域移行の方針が示された当初は、令和5年度から3年間としていた地域移行の目標達成時期を見直し、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すと改められました。

長崎県においては、従前から休日の部活動を段階的に地域スポーツ活動に移行して、令和8年度からの完全移行を目安としておりましたので、これは、今回の国の方針とほぼ一致するものとなっております。

今回のガイドラインを受けて一部見直しがある可能性もありますが、現時点においては、本市においても、令和5年度からの3年間の準備期間を経て、令和8年度以降の可能な限り早期の実現が一つの指標であると考えております。

教育委員会としましては、今後も検討委員会の皆様からの提言や、国や県の進捗状況等も踏まえながら、子供達が将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に努めてまいります。

次に、御質問の2点目、特別支援学級に従事している介助員の業務、給与についてお答えいたします。

現在、小学校に47名、中学校に11名の介助員を配置しております。対馬市の介助員は、一般的には特別支援教育支援員と呼ばれているものでございます。

この事業は、通常学級に在籍し、教育上、特別な配慮を要する児童生徒の介助や支援、また特別支援学級のうち、複数の児童生徒が在籍している学級の支援を行うことを目的に、平成17年、2005年に始まったものです。介助員の皆様には対象となる児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるように、日々、御尽力いただいているところでございます。

具体的な業務内容は、食事、衣服の着脱、排せつの世話などの身辺処理、席を離れたり、教室を飛び出したりする児童生徒への対応、書き取りの補助、また、先生の話をつまみやすく伝えるなどの学習支援、肢体不自由などの児童生徒の移動補助、健康状態の管理などでございます。

次に、給与等の雇用条件でございますが、介助員は、対馬市会計年度任用職員の日額職員として雇用しております。勤務時間は、午前8時から午後5時までのうち、1日6時間、年間の労働日数は173日以内としております。報酬は、月額5,386円でございます。また、年次有給休暇はございますが、報酬以外の手当、交通費はございません。これらの雇用条件につきましては、対馬市が雇用しております月額会計年度任用職員全てが同様の取扱いとなっております。

御質問の介助員の業務及び給与についての内容は以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

まず、市長とも、今、市長のほうを見ておりますと、私とネクタイの色が同じ色であります。今日はすり合わせがうまくいくのではないかと考えておりますので、ぜひいい答弁のほうをよろしく願いしておきます。

まず、消防署の関係のほうからお尋ねをしたいと思っております。

消防署職員の過去10年間、令和4年度以降、以前ですかね。中途退職者は38名いるんですね、38名。最近、直近、令和2年、3年、4年、今年度6人ずつ、この3年間でも18名の退職者がございます。この10年間の対馬市出身以外の中途退職者、島外の退職者は、消防長、何

名いらっしゃいますか。

○議長（初村 久藏君） 消防長、主藤庄司君。

○消防長（主藤 庄司君） 糸瀬議員の御質問にお答えさせていただきます。

平成25年から本年度末の予定まで入れまして、島外出身者が21名退職する予定となっております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 島外出身中途退職者は21名ということで理解いたしました。

それで今、市長のほうから消防職員委員会の要望等、意見を聞き、取り組んでいくということ答弁がなされましたが、具体的な消防職員委員会からの要望が上がっていると思いますが、どのような要望が市長のほうに上がっていますか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、対馬の面積を考慮いたしますと、大変、対馬は広い島ということで、その住居地から勤務先に出勤するのに、面積の関係から今現在は3ブロックに分けております。このブロックをもう少し広くと申しますか、2ブロックぐらいに分けることができれば、自分の自宅からの通勤がもう少し楽になるのではないかというような要望もあっているということでございますので、このことにつきましては、業務上の問題等がなければ、そのような要望に応えられるように、今後、もう少し精査をしていければいいかなというふうに思っているところでございます。

そのほか、採用時に中型免許取得を採用条件としておりましたが、これが取得、免許時に取得可能な準中型免許の取得で足りるというようなことで改善をしたということで、あと残りは、諸手当の関係等があるかとは思っておりますけれども、この諸手当の関係につきましては、大方は他の消防本部と比較しても遜色がないということで、もう少しこのことについては内部で検討を重ねていきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、市長のほうから通勤距離の関係で要望が上がっているということが言われました。

今現在、消防職員は通勤距離が15キロと制限がされております。それでやはり、この職員の、消防職員委員会は、これ30キロを要望していると思います。それで、30キロの変更をすることにより確かに交通費は少しは増加いたしますが、住居手当等は減額になると思っております。対馬島内は昔に比べ、今、道路もアクセスも整備されております。それですので、これももう何

十年前からずっとこの15キロというのは制限がなされてあったと思います。これをぜひ、市長、職員はこの通勤距離によって、やはり家庭で過ごす時間もあるし、やはり皆さん家庭でゆっくり家族と過ごしたい、そういった要望なんですよ。ですから、市長が家庭の事情でということはそれしか理由がないんです、辞める理由は。職員は、やはりそういった要望をずっと求めているわけですよ。ですから、今回、この要望を、あとは休日、休日手当。この休日手当も代休扱いか年休扱いに、私もちょっとその辺詳しくはございませんが、それを休日はそのような手当が減額されているということを聞いております。その辺を踏まえて、これをぜひ改善しないと、対馬市の皆さん、生命と財産を守ってくれる職員がこれ今も危機になっているわけですよ。市長、そこら辺を改善していただけますか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど申しましたように、この通勤距離に関することにつきましては、今、議員のほうからおっしゃられましたように、今現在は15キロでございますけれども、これを改善することによって自宅から通勤が可能になるということで、途中で辞職するような消防職員が少しでも少なくなればいいというようなことで、このことについては、また消防署の方とも協議を進めながら改善を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。今このケーブルテレビを消防職員の皆さんも聞いております。その家族も見ておりますので、今、市長の答弁に非常に期待をしておりますので、ぜひよろしく願います。

それと今、島外の採用者が21名、10年間で辞めているということをおも消防長のほうからも聞きました。それで、やはりこの採用の、今後ですよ、今後、今、採用をやはり対馬島内の高校生を中心とした採用基準に、今後、していったほうが私はいいかと思います。

それと、やはり試験の基準、やはり大変試験の基準が下げているかもしれない、やはりそこら辺はもう少し、島内出身者の地元の高校生をぜひ頭に入れていただいて、今後、採用、人口減少の少しでもプラスになればいいかと思っておりますけれども、そこら辺の基準の見直し、そこをもう少し、市長、よろしく願います。そこはどうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 採用基準の見直しということでございますけれども、このことにつきましては、今、対馬市内の受験生を優先するというようなことは、なかなかこれはできないものかというふうに思っております。ただし、できる限り、対馬市の子供たちに多く受験をしてもらうように進めることは可能なかなと思っております。

議員おっしゃられるように、そこに何らかの、悪い言葉で言えば、げたを履かせるとかそうい

うことであろうかと思えますけれども、ちょっとそこになればいろいろと問題等も発生するかと思えます。ということで、より多くの方にチャンスを与える、与えやすくするような環境を、今後、また構築してまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

今、市長のほうからも答弁をいただきましたけれども、やはりこの消防署の採用に関しましても様々な、やはり今、職場環境、この職場環境の改善、やはり大胆な働き方改革を進めていかないと、対馬消防署職員、大変厳しい人材不足になると思えますので、市長、私の要望、提案を検討ではなく、ぜひ実行のほうで進めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

次に、教育行政についてお尋ねをいたしたいと思います。

今この部活動の在り方というのは、対馬市でも今進めて、検討委員会ということを進めておられます。やはり、この部活動のやっぱり担当職員としては、今、部活動を携わってある職員はやはり専門職以外の顧問として配置されることがやはり重荷になっているという認識をしております。今、部活動の担当職員の手当、先生の中学生的手当、平日はボランティアでやられておるんですね。週末、担当の先生は今、時間給とか分かりましたら、お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 大変申し訳ありません。正確な額かどうか分かりませんが、私の記憶では、3時間以上指導しているときに3,200円。ちなみに、私が教員になった頃は、6時間以上500円で行っていました。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今は、多分、土日祭日、今いろいろ部活動も休みとかいろいろ変わっていますが、大体、2,700円から3,000円ぐらいであろうということで私も聞いております。

それで、1つ教育長にお尋ねなんですが、やはり今、中学校、中学校のやはり今後の将来的な学校の統合、対馬に最終的に、今分かる範囲でいいですけども、最終的に何校、中学校が残す計画で行かれているのか、分かる範囲で構いません。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 現在、進行中のことですので、確定的な数値をここで申し上げるわけにはいきませんが、現在、見通しとしては、小学校が15校程度、中学校が8校程度がここ、現時点での見通しとなっています。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） やはり少子化の影響というのはもう、これはもう待ったが効きま

せんので、今そのように計画をされてきているというのは、市民の皆様も保護者もそういったことを分かってくると思います。やはり今後は部活動が今、クラブチームとして進めていかなければ、対馬市も生徒の数とかそこら辺を踏まえたと、やはり指導者のどのような、今後、土日の指導者、どういった職種の方を考えてあるのか、その辺を検討委員会で今、分かる範囲で構いませんけれども、答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 土曜日、日曜日に指導していただく方についてでございますが、現時点で各スポーツ協会で活躍をされている方。また、各競技の審判員等をお務めの方。過去、御自分がその競技を経験されて、今、社会人として各スポーツ協会等に所属され、実際に競技をされている方。また、これは兼職兼業の発令が必要になってきますけれども、実際に学校で勤務している教職員を想定をしております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） やはり今、この移行になってくると、やはり指導員の問題が出てくると思います。やはり外部指導員として、やはり今、土日ということになりますと、やはり一般の方は事業をされている、なかなか難しいかもしれません。やはり公務員とか、そういった団体職員の方、土日が休みという方々、そういった方々が中心になってくるのかなということは私は思っております。

そういった方でやはりこの報酬関係、そういった過程に、やはりそういった報酬、報酬関係でそういった負担がなるべくかからないような方法をつくり上げていただきたいと思っております。

やはり部活動は大変厳しい、今後問題ではございますけれども、やはり教育委員会と学校関係者、保護者だけではなく子供たちの、やはり子供たちが一番メインでございますので、子供たちの意見をやはり少しでも十分に取込んでいただいて、一番いい部活動の在り方を進めていっていただきたいと思っております。

令和8年度からこれをスタートするというので今、3年間は準備期間ということですがけれども、ぜひ教育長、今任期の間、いい部活動の取組でつくり上げていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

次に、教育行政、2点目の介助員の質問でございます。

今この令和5年度に対馬市の広報を見ておりますと、会計年度任用職員の募集は89の職種でございます。そして約370名の採用予定があると思っております。介助員としては65人を募集予定でありました。業務内容は、先ほど教育長も述べられたように特別な配慮を要する園児、児童生徒への日常生活の介助、学習支援、健康管理、安全管理などの業務に携わっておられます。

やはりこの介助員が、この間、私たちも総務文教常任委員会で視察に行きました。学校の先生方のおっしゃることは、介助員が不足しておりますと、どこの学校もそのように言われました。なぜ不足なのかということ、問題点を解決しなければ駄目なんですよ、教育長。だから今、介助員は、1日6時間、年間にしますと173日以内の規定がございます。先ほど教育長は、時給、日給が今5,533円になっているじゃないですか。令和5年度からは5,533円、時給に直すと922円です。よろしいですか。それを173日で年間掛けますと約95万7,200円の所得になるわけですね、介助員の方が1人。ですから、やはり今、言われるように、介助員の皆さんには交通費が支給されておられません。これは対馬だけなんですよ、支給されていないのは。五島とか壱岐とかほかのところを私、確認しましたら、介助員の皆さんは全て支給されています、交通費は。そこら辺の答弁は、介助員と会計年度任用職員、日額会計年度任用職員と月額会計年度任用職員のなぜ交通費が出ていないのか。そこをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 日額会計年度任用職員は、教育委員会だけの任用ではございませんので、まず、教育委員会にいらっしゃる介助員についてお答えいたします。

この制度が始まった当初は、対馬市全体でも1桁の人数の介助員の方でございました。主として、校長先生に1人だったらいいよと。2人だったらいいよというふうなやり取りをして、教育委員会と。校長先生が校区にお住いの方から人選をして、そして推薦という形で任用するという形にしておりました。基本的に、学校の近くにお住いの方ということでこの制度が始まった経緯がございます。

ところが、支援を必要とする児童生徒の増加とともに、なかなか学校の近くで人を探すということが難しくなってきました。その影響で長い距離を通勤されている方もいらっしゃいます。現時点でそれに対応ができていない状況でございました。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 次、財政のほう、総務部長ですね。やはり今、介助員の方々、まだ介助員を含め日額任用職員、やはり交通、近くの方となかなか今、いらっしゃらないんですよ。やはり通勤してやはり来ている方々がかなりいらっしゃいます。それで、なぜ行かない。辞められた方々に聞きますと、交通費が、やはり今、油も燃料も上がっています。交通費もかかるんですよ。そこら辺の見直しをもうしていかないと、やはり今、人へのお金の投資、やはりそこはしていくべきじゃないかなと私は思いますけれども。

今、教育長が先ほど述べられましたように、やはり財政のほうがそこはしっかりと、日額任用職員も月額任用職員も、皆さん、やはり交通費は支給をしてやるということを検討していただ

れば、どうでしょうか、部長。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 今、会計年度任用職員の通勤手当の件になってくるかと思うんですけど。日額会計年度任用職員がなぜ通勤手当がないのかということなんですけど、その分については、会計年度任用職員になったそのあたりの経緯、そのあたりはちょっと把握していない分がありますので、また今後の検討になってくるかと思うんですけど、月額会計年度任用職員については通勤手当はあります。

先ほど教育長のほうからも申しあげましたように、もう近隣の方を雇うという基本的なものがあるかと思うんで、その日額会計年度任用職員についてはなかったのかなど。この辺りについても法的にどうなのか、その辺をまた検討しまして、教育委員会も含めて関係部局と協議をさせてもらいたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 検討をぜひしていただいて、やはり日額、やはり特別支援学校がまだ設置ができていない状況で特別支援学級に通う子供さん、やはり保護者の皆さん、やはりそういうふうなケアが、子供たちがしっかりとした学校に行って、やはりサポートしていただきたい、そういう思いなんですよね。ですから、やはりそこら辺のサポートは市も、まだ特別支援学校が設置ができないのであれば、そういったサポート体制をしっかりとやれば、必ずや募集で不足ができてこないと思っております。ぜひ検討ではなくて、先ほども言ったように実行をしていただきたいと思いますが、部長、よろしく願いしておきます。

それと、教育長のほうにもう1点、最後なんですけど、今、北部小学校に医療的ケアの必要な子供さんがいらっしゃいますよね。2年間、今、看護師が必要と私は聞いているんですけど、まだ2年間たっても採用がされていないということで。この辺はやはり保護者が物すごく負担、学校側もやはり不安でもありますし、そこら辺の対応を今後どのようにされる予定なのか、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 今おっしゃったとおり、当該の児童、そして保護者の方には大変御苦労をおかけしている状況でございます。なかなか看護師さんが見つからない状況です。

現時点で、まだこれは案の案の段階なんですけれども、もし見つからない場合は、医療機関と話し合っ、その時間だけ看護師さんを派遣していただくことができないか等も含めまして、そのあたりの対応を考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 教育長、もう見つからない場合じゃなくて、もう2年間見つかっていないんですよ。もうすぐ、そのような病院との連携ちゅうのはもう始めた、始めてもらえないでしょうか。2年間見つかっていなくて、見つかったら見つからない場合じゃなくて、ぜひもう保護者もやはり2年間、大変な思いしているんですよ。学校側もやはりそこ心配しているわけですよ。私も現地を見に行きましたけど、やはり本当、先生も大変だし、保護者も、それは検討じゃなくてぜひ対馬病院との連携、それでその時間でも派遣ができますよう、そこは強く要望いたします。よろしくお願いいたします。

最後に、3分ありますので、福祉行政についてお尋ねをします。

先ほどこの人材不足について、入江議員さんのほうも施設施設ということ先ほど言われていましたが、やはり施設ができて人材が不足していればなかなか難しい、これは問題だと私は思っていますが、今、長崎県が2025年度までに県全体で3万2,000人介護人材が必要とされているわけです。しかし、このままでいくと2万100人、長崎県は県内の介護施設で働く、これは福祉部長が答弁をされております。

それで、対馬市では、今後3年間のうちにどれだけの介護人材が不足すると認識をされておりますでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） まず、現状をお答えしたいと思います。

これは県の介護保険事業所情報による数値ですけれども、事務職員等を含め、現在、市内におきまして、約750人ほどが従事されていると聞いております。対馬市内におきまして理想とする従業員数は800人程度ではないかと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） また、その人材としてどれくらい不足しているというのはまだ認識していないということですね。ぜひそれは、いろんな介護施設を訪ねても状況を聞いてください、部長。そうしないと、これ今、今はいいかもしれませんよ。でも、3年、5年先に高齢者が高齢者を支える時代になってくるわけですよ。ですから、人へのこの人材不足というのはどうしても考えていかなきゃいけませんので、それでやはりこれは、島内で駄目なら、島外への外国人労働者、そういった方、そして介護専門学校、島外にいる介護専門学校の生徒を対馬市が補助してでも研修制度を導入して、専門学生を対馬島内に研修で入れてみたり、そういったことを検討して、ぜひやってみてください。よろしくお願いいたします。

これで私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。